2020年 9月20日発行

みらいすくすく通信

467号

この通信に掲載の野菜のお届け日

2020年10月5日～10月9日

いつも有機野菜をお買い上げありがとうございます。
毎週、旬の情報をお届けします。

有機農産物のお届け便 ゆうきの実

“農的人生を楽しむ”　上富良野町　ちいむれグロリア農園　武藤講三さん

自然へのあこがれを持って、三重県から北海道にやってきたのは２０歳の時でした。何件かの酪農農家での研修を経て、最後にたどり着いたのが上富良野町でした。研修先の農家は酪農の他に有機農業もしていて、この時、武藤さんは有機農業と出会いました。
自然にあこがれ北海道に来た武藤さんにとって、有機農業は進むべき方向として迷いはありませんでした。

▲手に取るのはきたあかり。今年のじゃがいもの出来は良い出来だと武藤さんは胸を張ります。

「農村の暮らしの豊かさ」

「空気が美味しいと感じたり、山がきれいだと感じたり、暮らしの中で自然を感じることができるから、農村の暮らしは豊かだと思うのです。」と武藤さんは言います。
高校卒業後、２年間東京で暮らした経験から、都会で自然を感じることは難しいと思いました。そんな武藤さんにとって、上富良野で自然を感じる暮らしはとても豊かな生活なのです。
しかし、自然は厳しく、自然の中での農業は体に大きな負担を強います。例えば、豪雨の影響で、傾斜地の農地の土を大きくえぐられる災害に見舞われたり、腰痛により思うように仕事ができなくなったりと。こんな時は農業をやめようかと思うこともあるのだといいますが、それでも武藤さんは、農村の暮らしをやめません。武藤さんはその理由を“農的人生を楽しむ”ためだと教えてくれました。

▲多くの人を受け入れるために建てられたゲストハウス。

～農村の暮らしの豊かさを伝えたい～

武藤さんは、農村の豊かな暮らしを多くの人に伝える活動として、毎年多くの人を迎え入れ、有機農業を一緒にやっていました。
農作業を通じて農村の暮らしを体験してもらい、それぞれが今の暮らしやこれからの進む方向について感じることがあればうれしいのだと武藤さんは言います。
残念ながら、年齢的な理由で受け入れをやめることにしたのだそうですが、時折武藤さんを頼り宿泊に来る人がいるそうです。武藤さんの思いは、多くの人に影響し、その人たちの暮らしの豊かさに対する考え方の助けになったのだと感じました。

▲花やオブジェに彩られたきれいな庭

◀武藤さんの家に向かう交差点の角に、手作りの看板があります。

～今年のじゃがいもは「良い出来で美味しいですよ」～

訪問した時、じゃがいもノーザンルビー（赤いサツマイモのような見た目のじゃがいも）の選別と箱詰め作業の最中でした。
「打ち身やキズなどが多少出してしまったけど、今年のじゃがいもは、とても良い出来でおいしいですよ」と武藤さんは笑顔で答えてくれました。
武藤さんのノーザンルビーは、注文でも承れますので、ぜひ一度武藤さんの作ったノーザンルビーを食べてみてください。
誰がどんな思いで作った野菜なのかを知って食べる食事は、同じ料理でも少し美味しく感じるかもしれません。

▲一つ一つ丁寧に選別します。お客さんが手にするものだからできる限りきれいなものをお届けしたいと武藤さんは言います。